

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

137

これまでタイは日本の登場により100年との経済的関係が深かったが、すでに最大の貿易相手国は中国となり、近年、電気自動車(EV)や第5世代通信(5G)などの産業で急速に中国などとの連携が深まりつつある。

EVで変革

アジアのデトロイトと標榜されるタイは、国外の自動車メーカーを受け入れることにより産業形成を図ってきた。中でも市場の9割シェアを日本勢が占めていたが、ガソリン内燃機関を基軸とした自動車産業は、EV

導入に積極的である。日本メーカーは現実路線のハイブリッド車(HV)やプラグインハイブリッド車(PH)の量産を展開しているが、中国・韓国勢などはEV生産にカジを切りはじめている。

中国との連携

長城汽車や重慶長安汽車もEVの投入とタイ現地生産を計画している。タイ石油公社(PTT)は、台湾の鴻海精密工業と連携し、23年にEVを生産開始する。今までの自動車生産は重層下請け(Tier)構造により多数の中小企業、労働者がベシヨンポート」が

燃料電池車(FCEV)はタイでも生産を始めようとしている。技術(ファウエイ)を積極的に推進している。

タイ、国際科技協力多角化



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター 主任フェロー(海外動向ユニット) 宮崎 芳徳

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。米国スタンフォード大学PhD取得。工業技術院、産業技術総合研究所で、地球科学、エネルギー、科学外交などに従事。タイ国のNSTDA(科学技術開発庁)、TISTR(科学技術研究所)を経て、20年より現職。タイ在住。

タイと中国の科学技術協力に関する近年の主な組織

- 2013年 中国・ASEAN技術移転センター (CATTTC、中国科学技術部とASEAN科学技術委員会が共同で設立)
- 17年 中国科学院バンコク共同イノベーションセンター (CASICCB)
- 20年 CATTTCバンコクイノベーションセンター 中国・タイ・ASEANイノベーションポート (CASICCBとCATTTCが共同で設立)

が東南アジア諸国連合(ASEAN)で最初となる5G研究開発拠点をデジタル経済社会省と共同で新設、テストベッドをカセサート大学シラチャキャンパスに設置するなどしてデジタル技術の研究開発だけでなく人材育成を積極的に推進している。

(金曜日掲載)